

車内ウォッチング(それぞれのつり革物語)

今回は電車の中でつり革を持つ人達の様子を描いてみました。これも十人十色、それぞれのパーソナリティーがよく現れています。

まず、一番オーソドックスなのがつり革の「環」を5本の指でしっかり握っている人、これが最も多いようです。

続いてまるで拝むように両手の掌（てのひら）を組み合わせ握っている人もいます。また、何故か親指と小指を伸ばして3本の指だけ「環」に掛けている人、この人は何か指の訓練をする目的があるのでしょうか。

次に「環」の部分を持たず、つり革だけをしっかりと握っている人、これも案外いますね。きっと、大勢の人が持つ「環」の部分は不潔と考えているのかも知れません。確かに暑くなると「環」の部分が汗などでべとついて厭いですね。

不潔と言えば、まるで汚い物を触るみたいにハンカチでつり革を握っている人もいますが、これは「潔癖症候群」、きっと、公衆電話も素手では触れない人でしょう。

大勢の乗客の中には面白い握り方をする人もいますよ。わざわざ手首を「環」の中を通して上のプラスチックの棒の部分もしっかり握っている人。おそらく『何事が起きてもつり革は放さないぞ』と確信的な人か、それともバッグでも必ず手首を通して持たなければ気の済まない用心深い人なのでしょう。

それとは対照的にどんなに電車が揺れても絶対につり革を持たず、急ブレーキやローリング、ピッチングに合わせ巧みに腰を前後左右にグラインドさせながら上手に体のバランスをとる人がいます。ひょっとしたらサーフィンのトレーニングをしているのかも知れませんね。

そうかと思うと中にはつり革には眼もくれず、つり革がさがっている金属のパイプをしっかり握っている女性がいます。

何となく『私はつり革を持たなくてもちゃんと上まで手が届きます』と自分の背の高さやスタイルを誇らしげに見せつけているように思えてなりません。

だけど、どんな場合でも、皆、それなりに真剣な眼差しでつり革をもっている姿が、いかにも真面目ってな顔で、かえってユーモラスに感じるのは私だけでしょうか。

つり革の持ち方一つにしても、こんなヴァリエティーに富んでいるなんて、人間って本当に個性豊かで素晴らしですね。